

# 新生児医療の人的供給体制の脆弱性

「拡大医療改革委員会」

「産婦人科医療改革公開フォーラム」

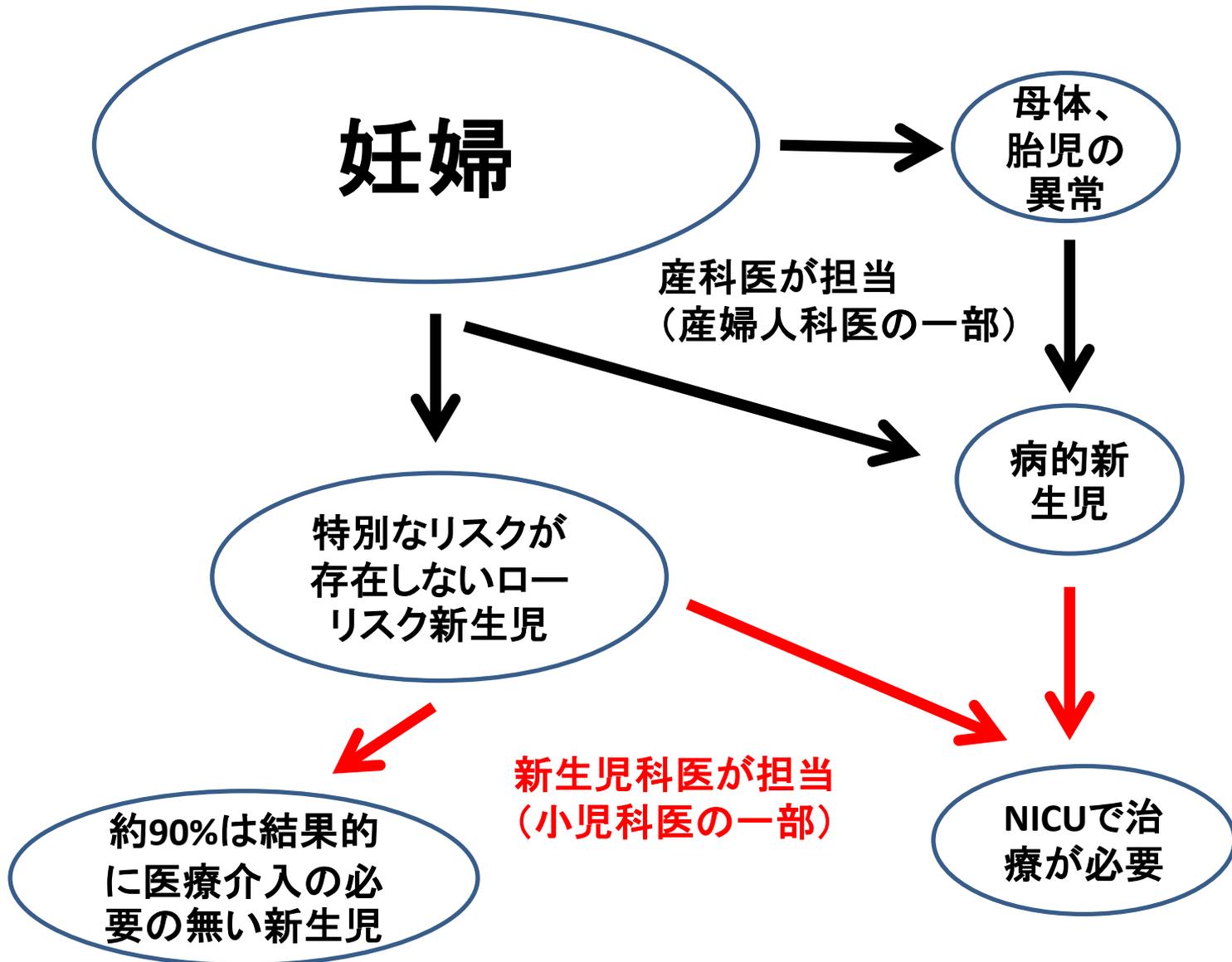
「持続可能な周産期医療体制の構築のための  
研究」

東京女子医科大学母子総合医療センター 楠田 聡

埼玉医科大学総合医療センター 田村正徳

長野県立こども病院 中村友彦

# 新生児医療とは



# 背景

平成6年度厚生研究班(主任研究者:多田 裕)でNICU必要数を2床/出生1000と算出。

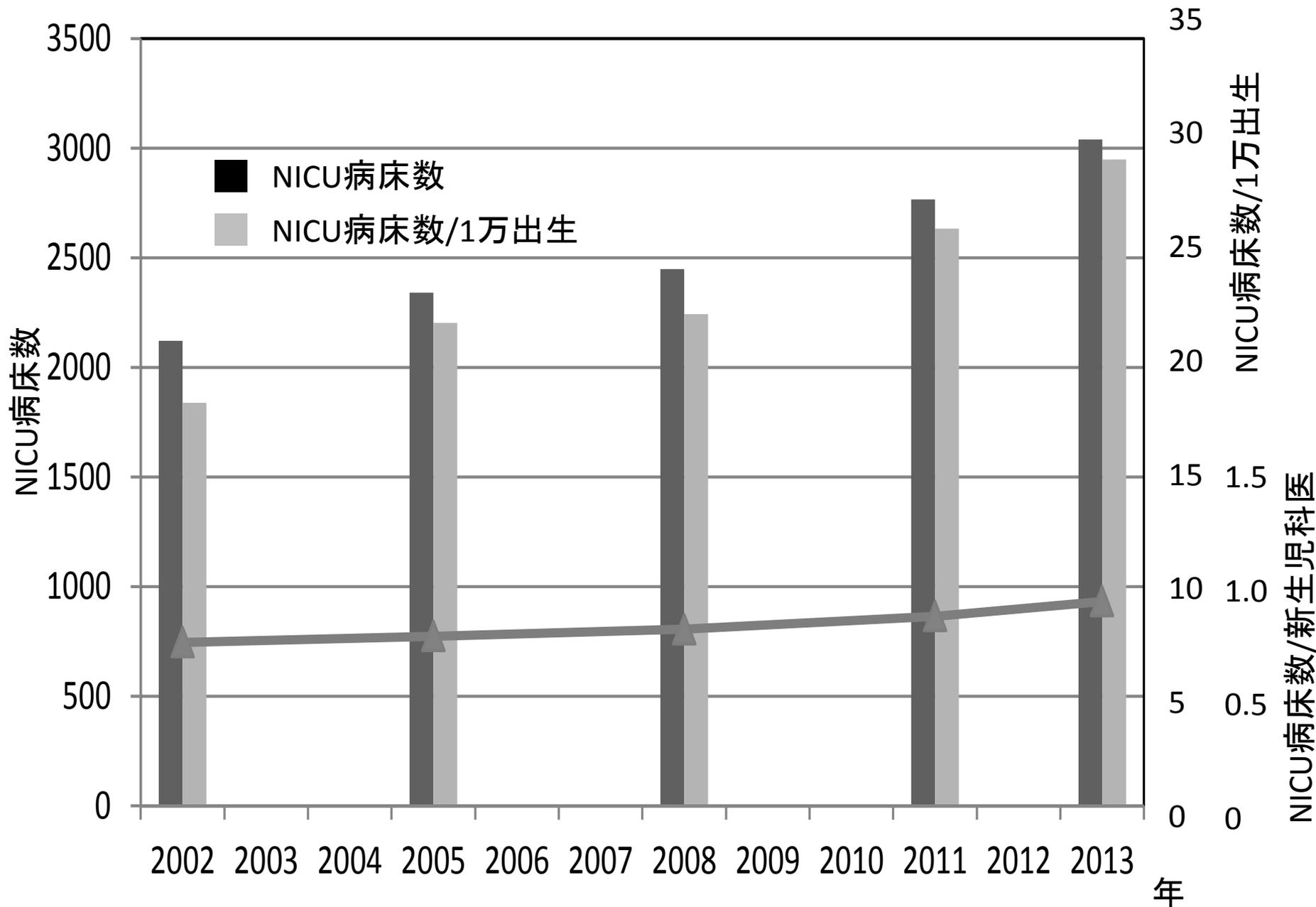
ハイリスク妊婦および新生児の増加

平成19年度厚労省研究班(主任研究者:藤村正哲、  
分担研究者:楠田 聡)でNICU必要数を25~30床/  
出生10000に増加させる必要があると算出。

平成20年東京都母体搬送困難事例が発生し、その原因としてNICU病床不足が指摘される。

平成22年の周産期医療体制整備指針で、  
低出生体重児の増加等によって、NICUの病床数が不足傾向にあることから、都道府県は、出生1万人対25床から30床を目標として、地域の実情に応じたNICUの整備を進めるものとする。

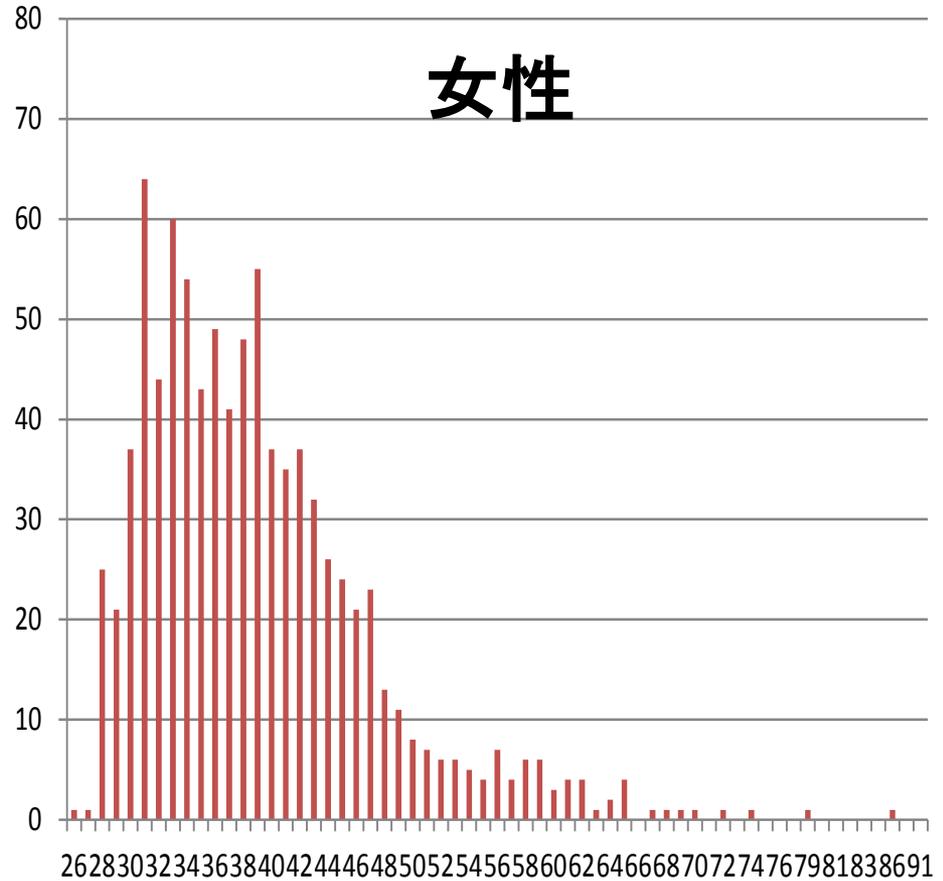
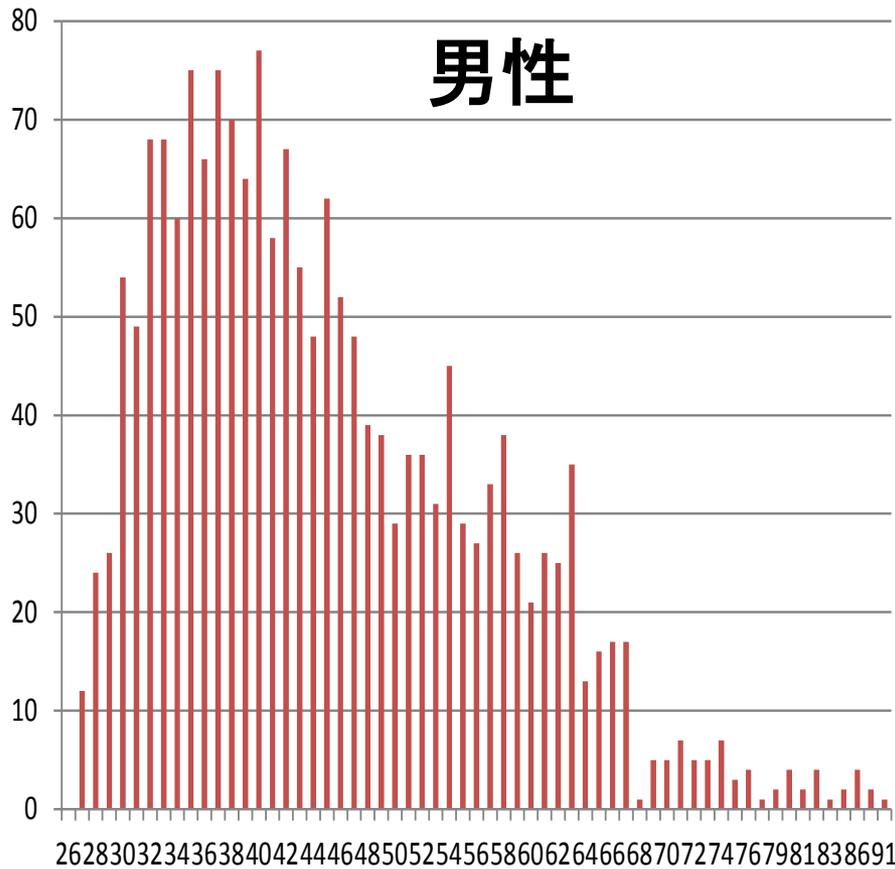
# NICU病床数と日本未熟児新生児学会員数の推移



# 新生児科医の勤務実態調査

- 2014年現在の日本未熟児新生児学会の会員を調査対象とする
- 全会員3,269名のうち、医師の会員で年齢データが登録されている、2707名を分析対象とする
- 勤務施設は問わず新生児科医として扱う
- 2014年末現在の年齢を算出
- 都道府県の新生児科医数とその平均年齢について解析
- さらに、新生児死亡率との関係について解析

# 男女別、年齢別会員数の分布

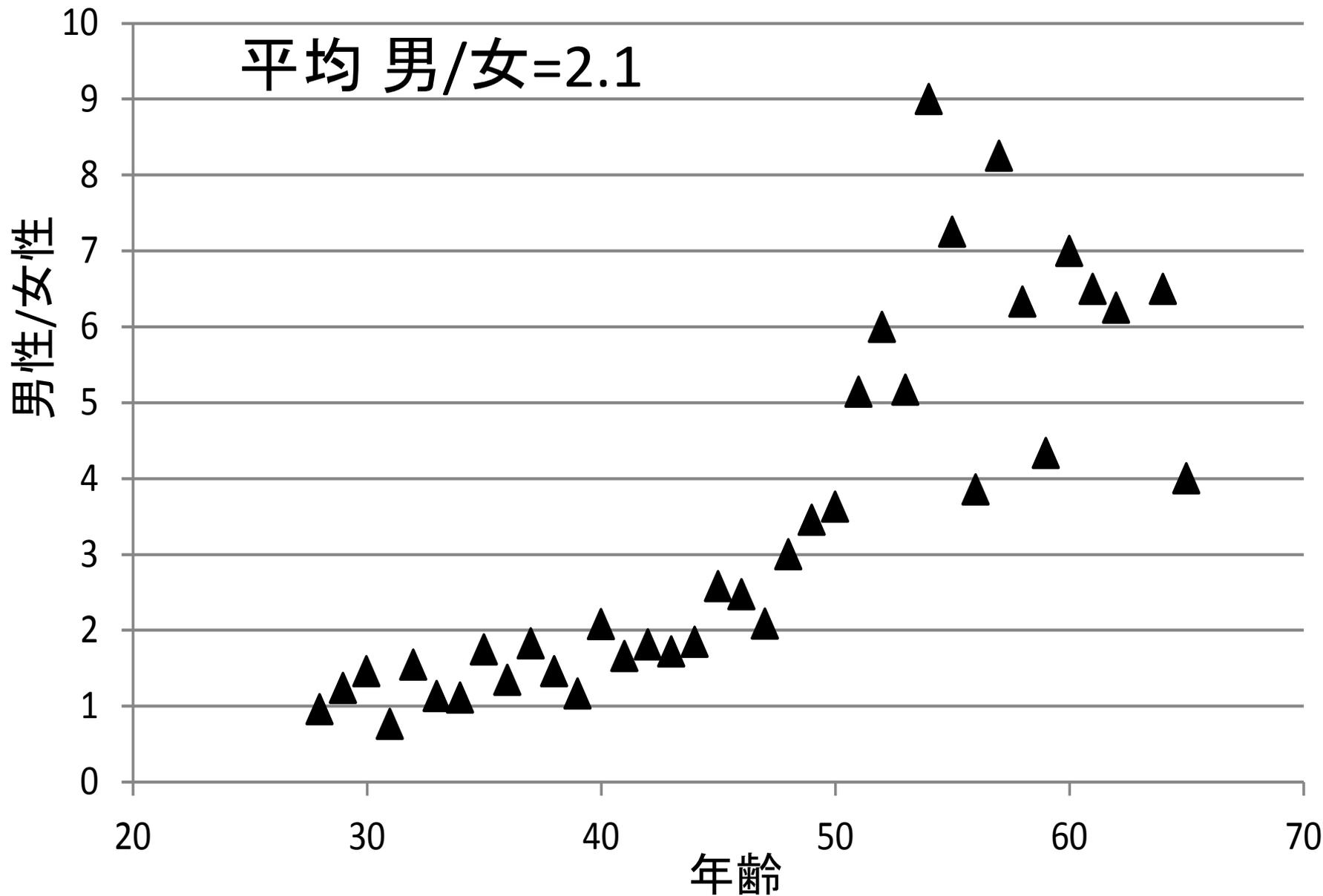


90パーセンタイル=61歳  
 75パーセンタイル=52歳  
 50パーセンタイル=42歳

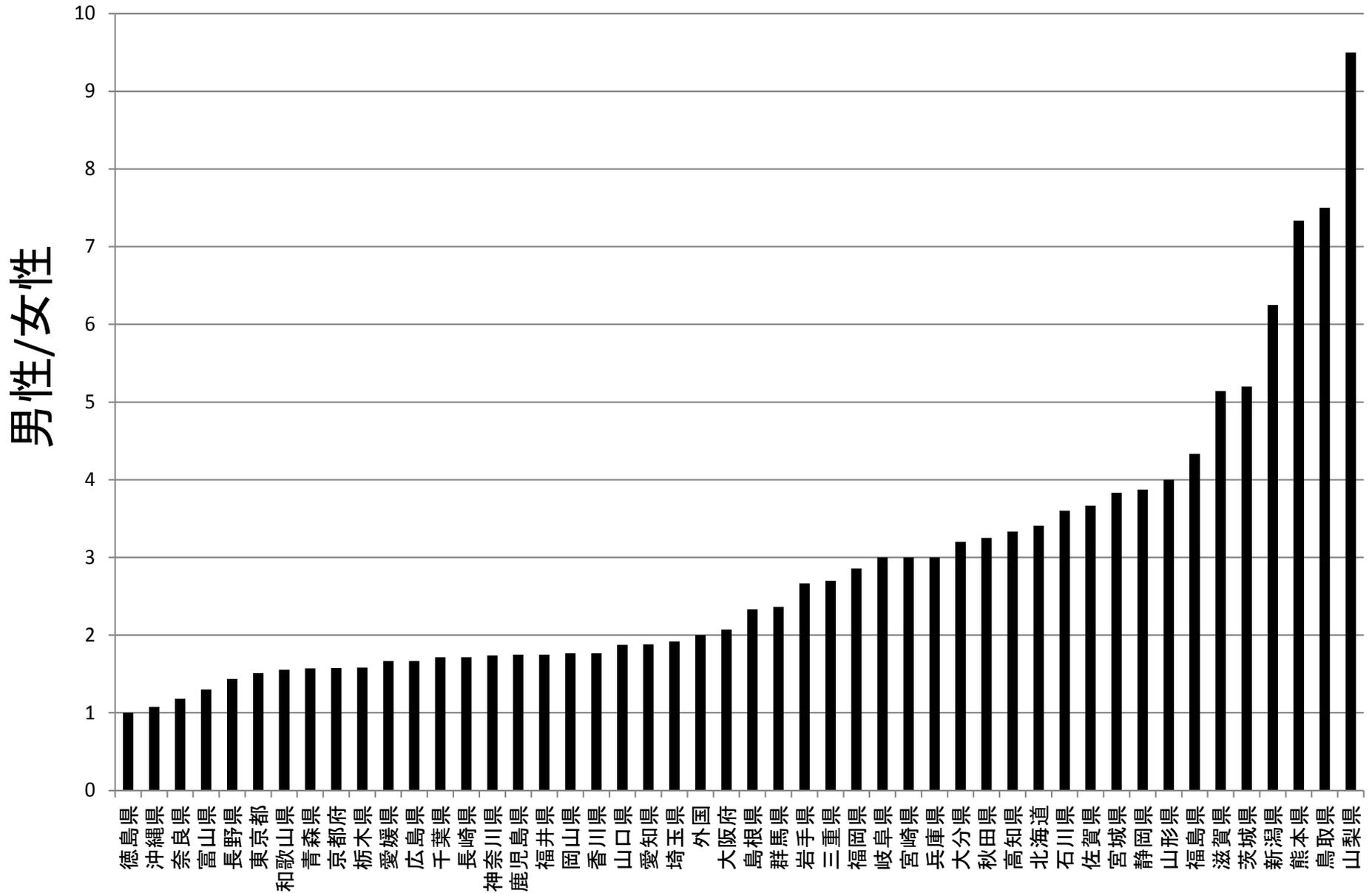
90パーセンタイル=58歳  
 75パーセンタイル=48歳  
 50パーセンタイル=39歳

90パーセンタイル=48歳  
 75パーセンタイル=42歳  
 50パーセンタイル=37歳

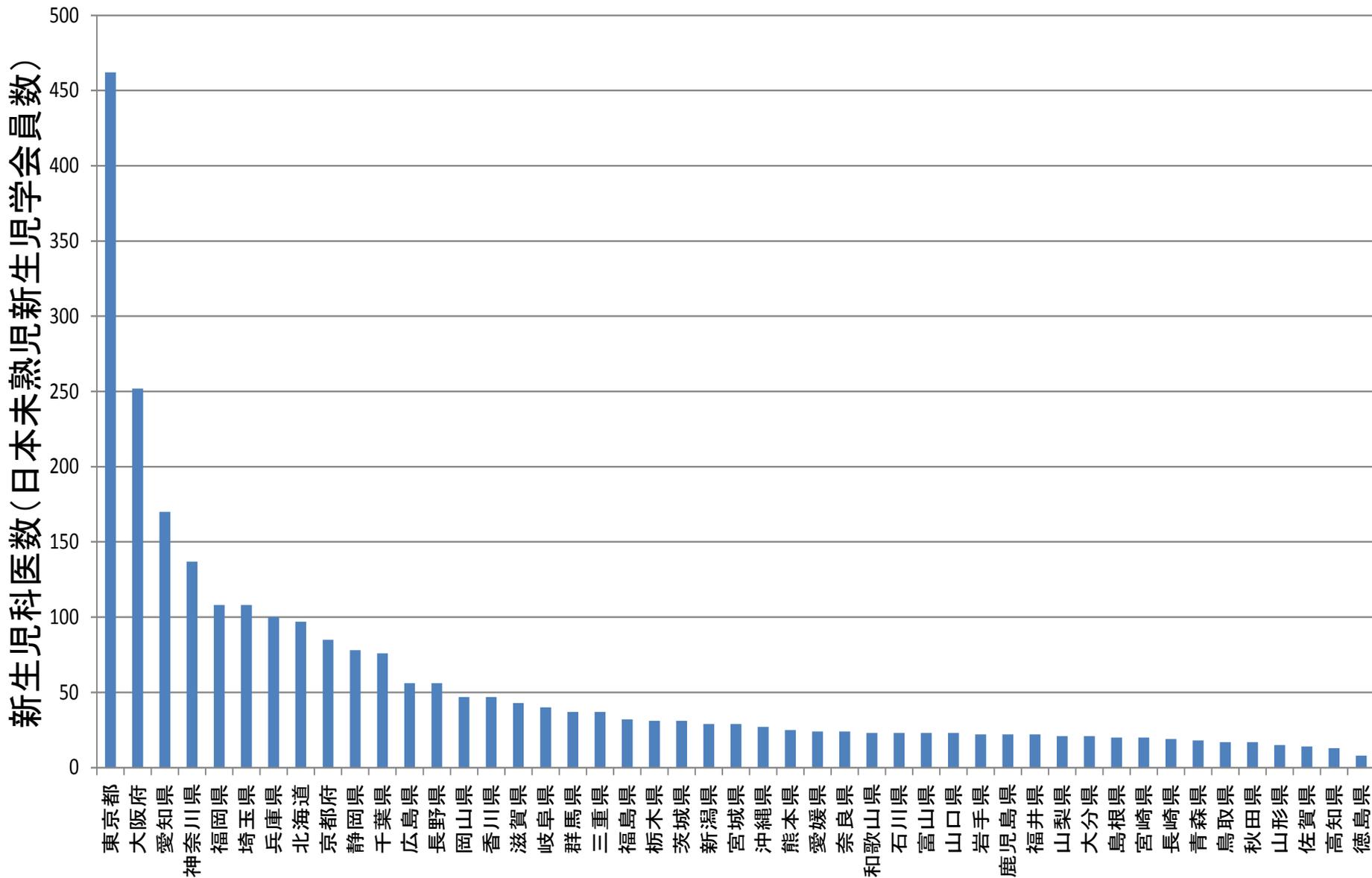
# 年齡別男女比



# 新生児科医の男女比(都道府県別)



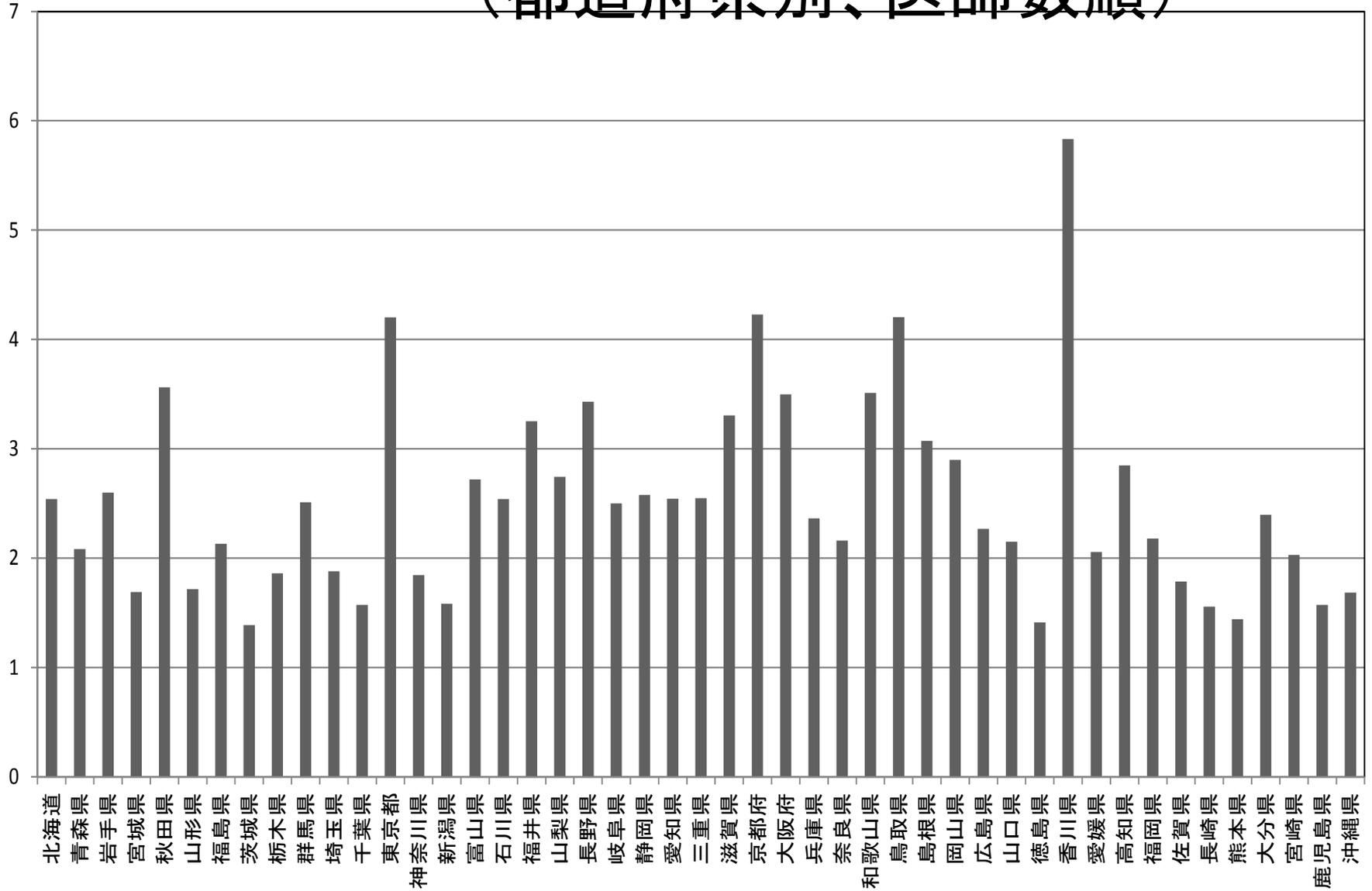
# 当道府県別新生児科医数(会員数順)



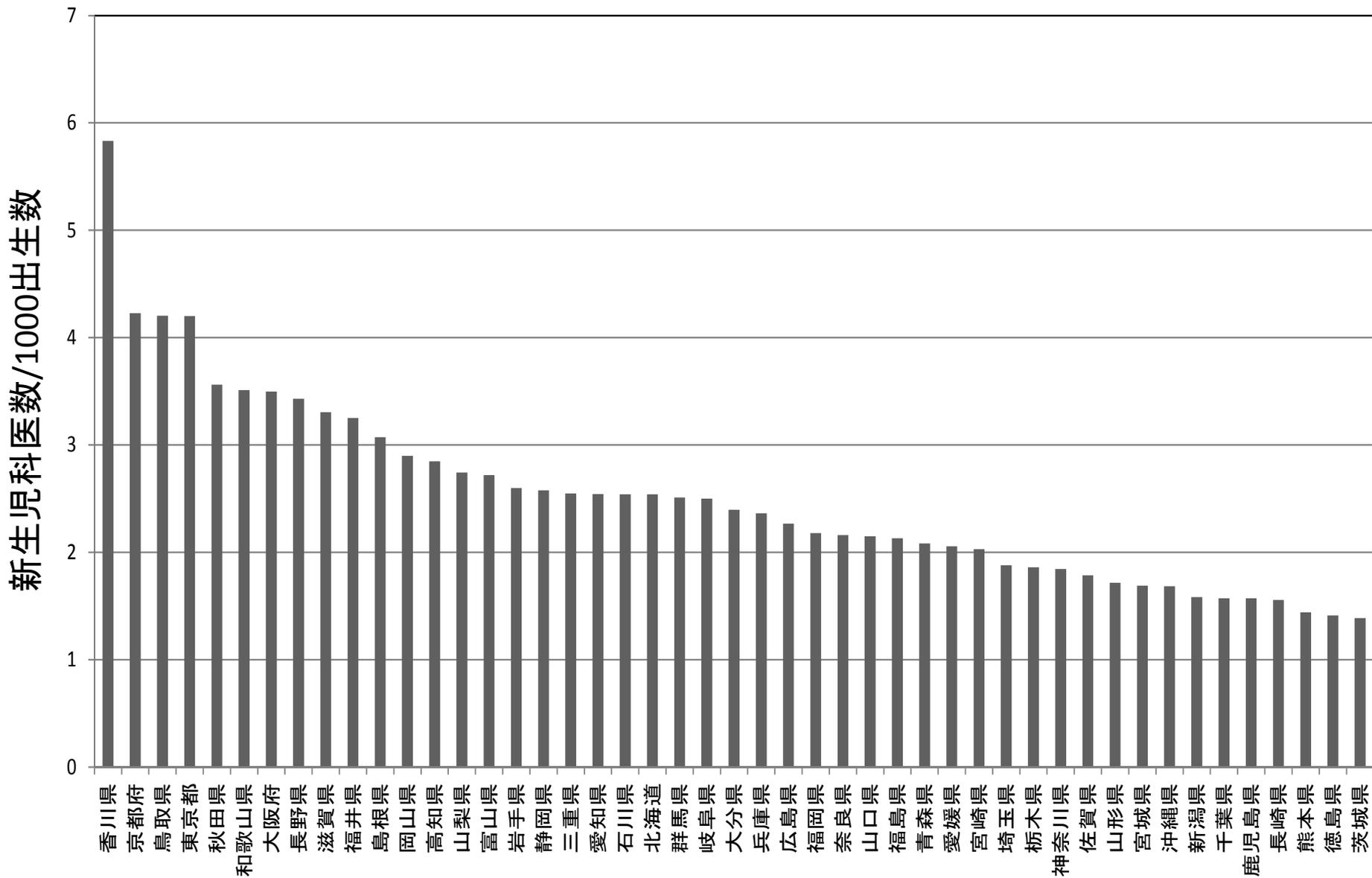
# 新生児科医数/1000出生数 (都道府県別、医師数順)

平均=2.6

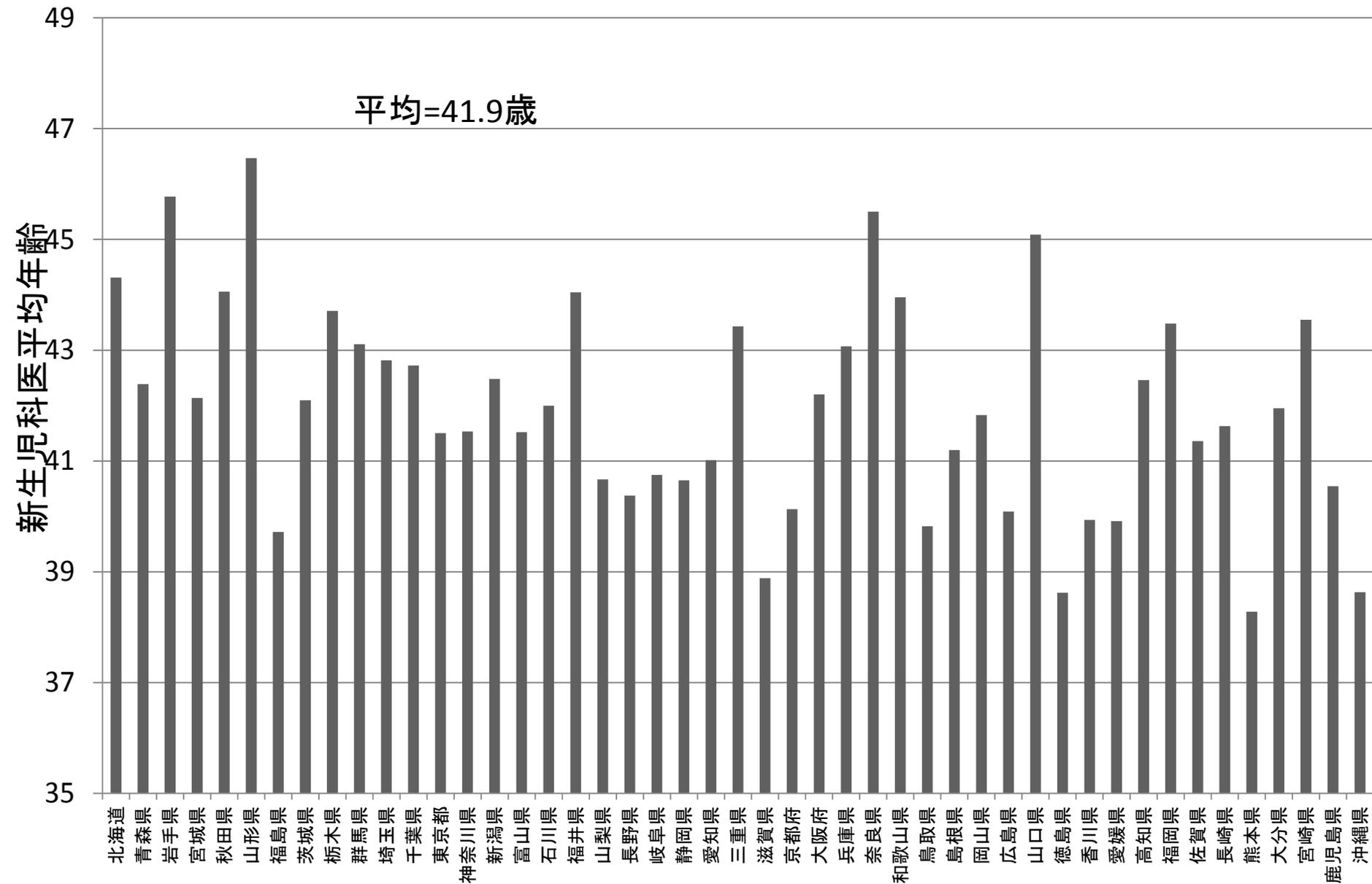
新生児科医数/1000出生数



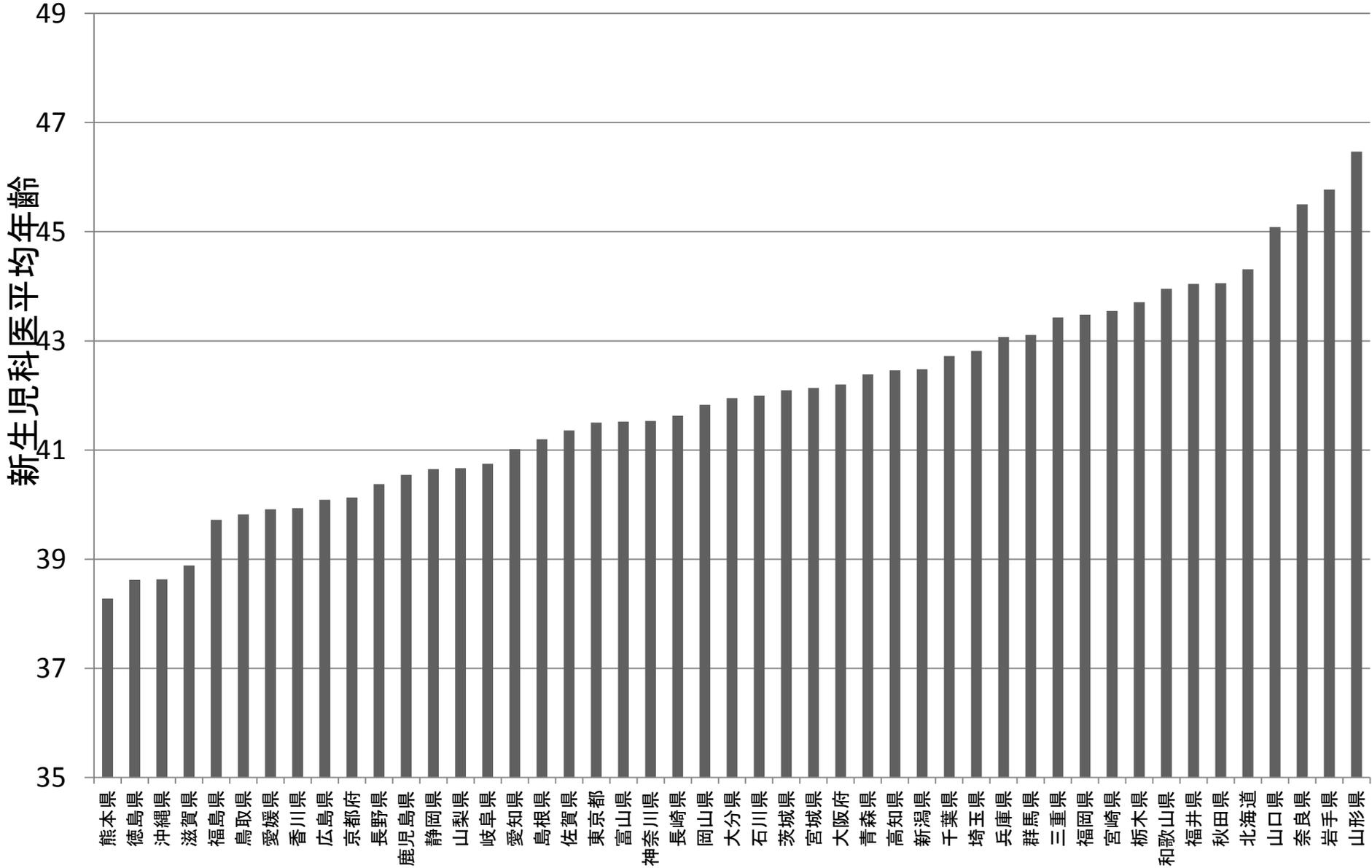
# 新生児科医数/1000出生数(医師数/出生数順)



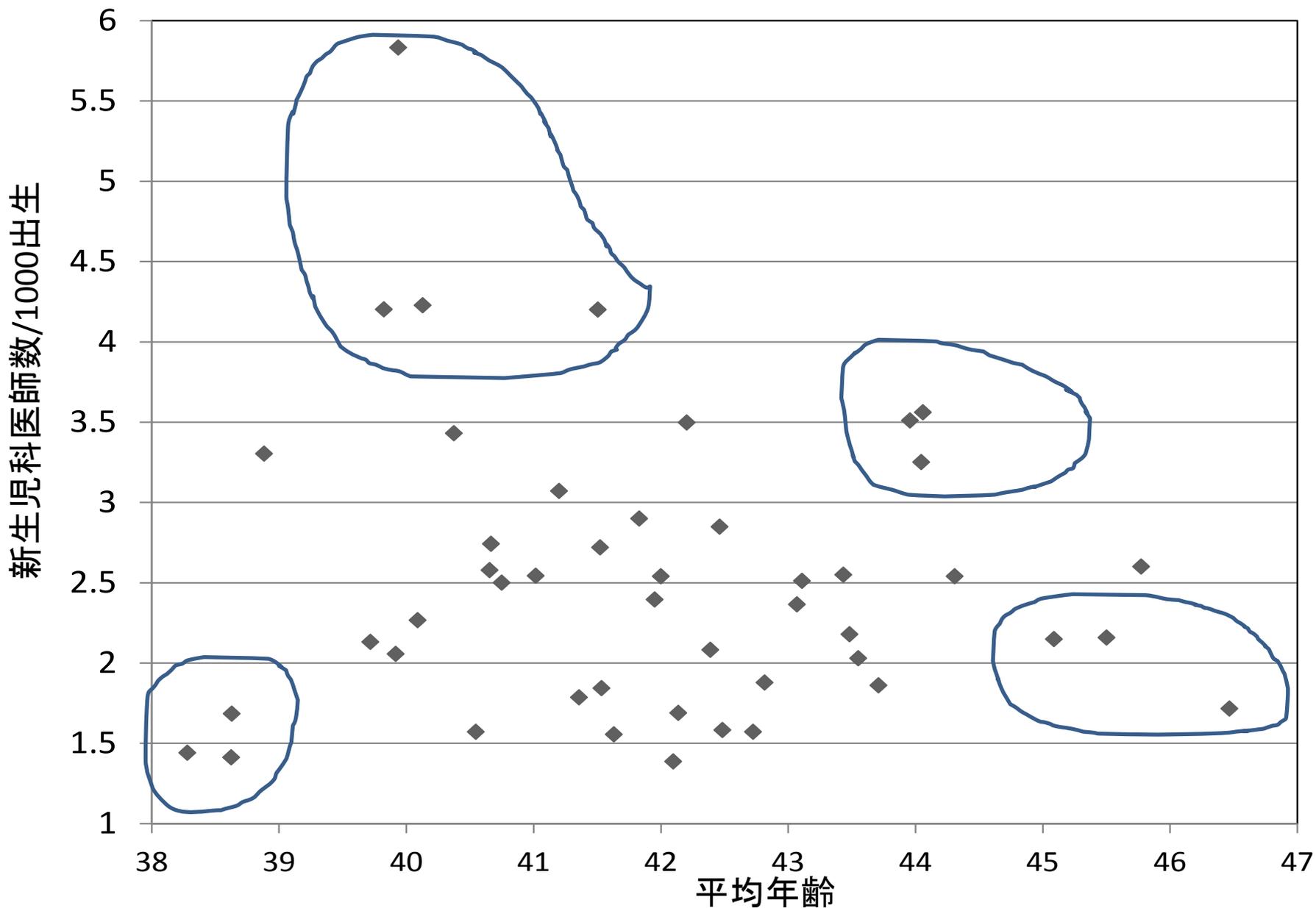
# 新生児科医の平均年齢(都道府県別)



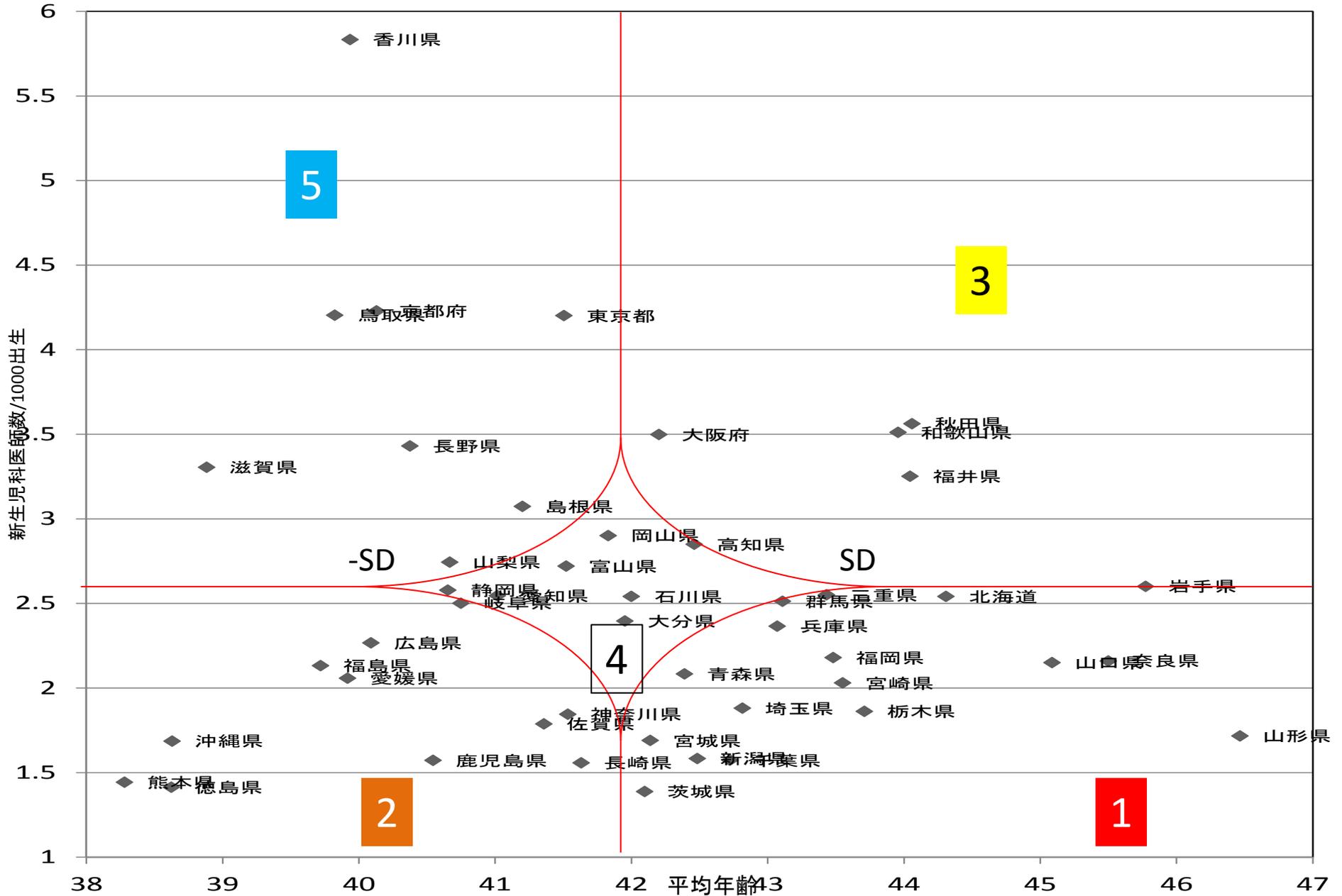
# 新生児科医の平均年齢（平均年齢順）



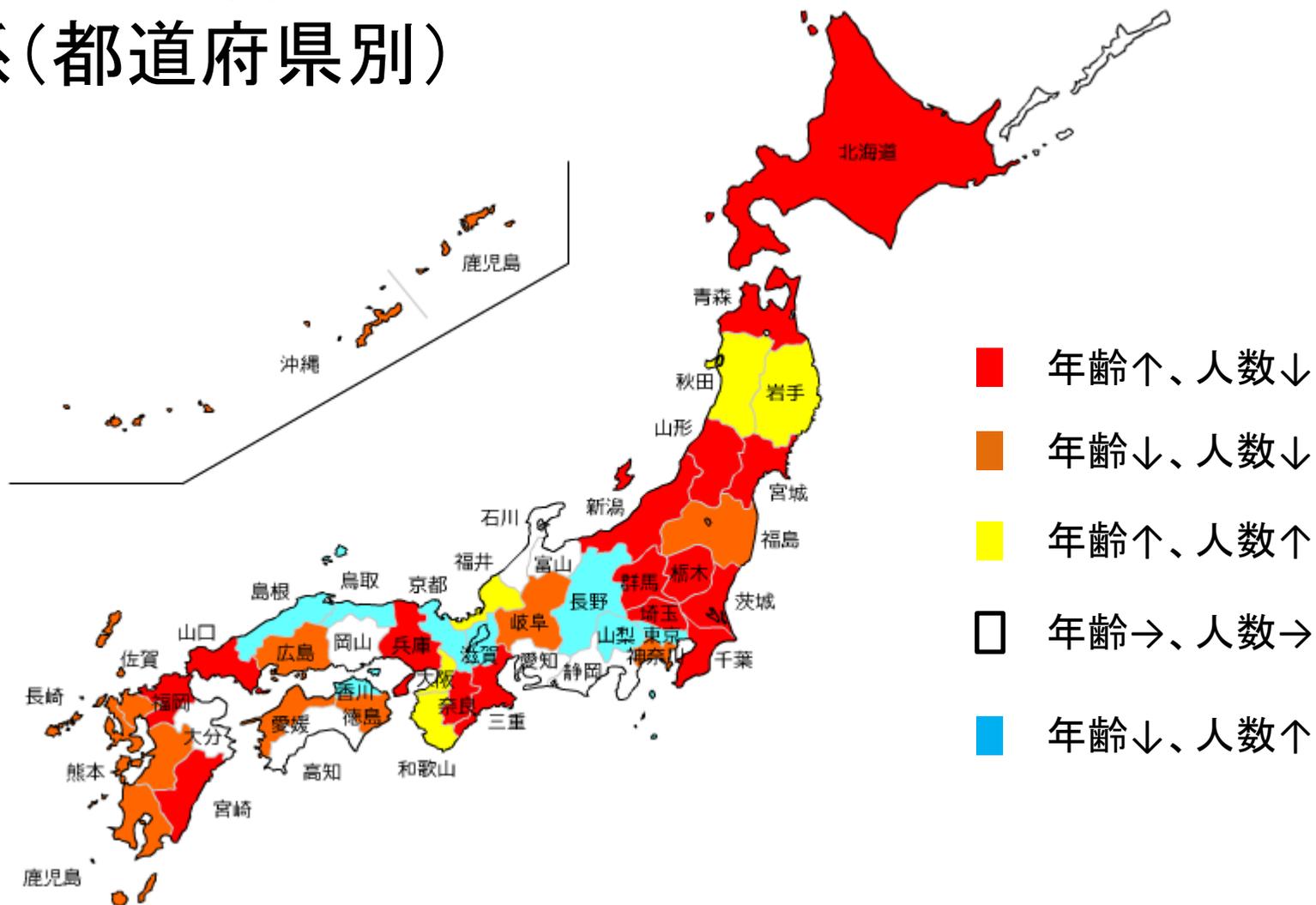
# 新生児科医の平均年齢と新生児科医師数の分布



# 新生児科医の平均年齢と新生児科医師数の分布

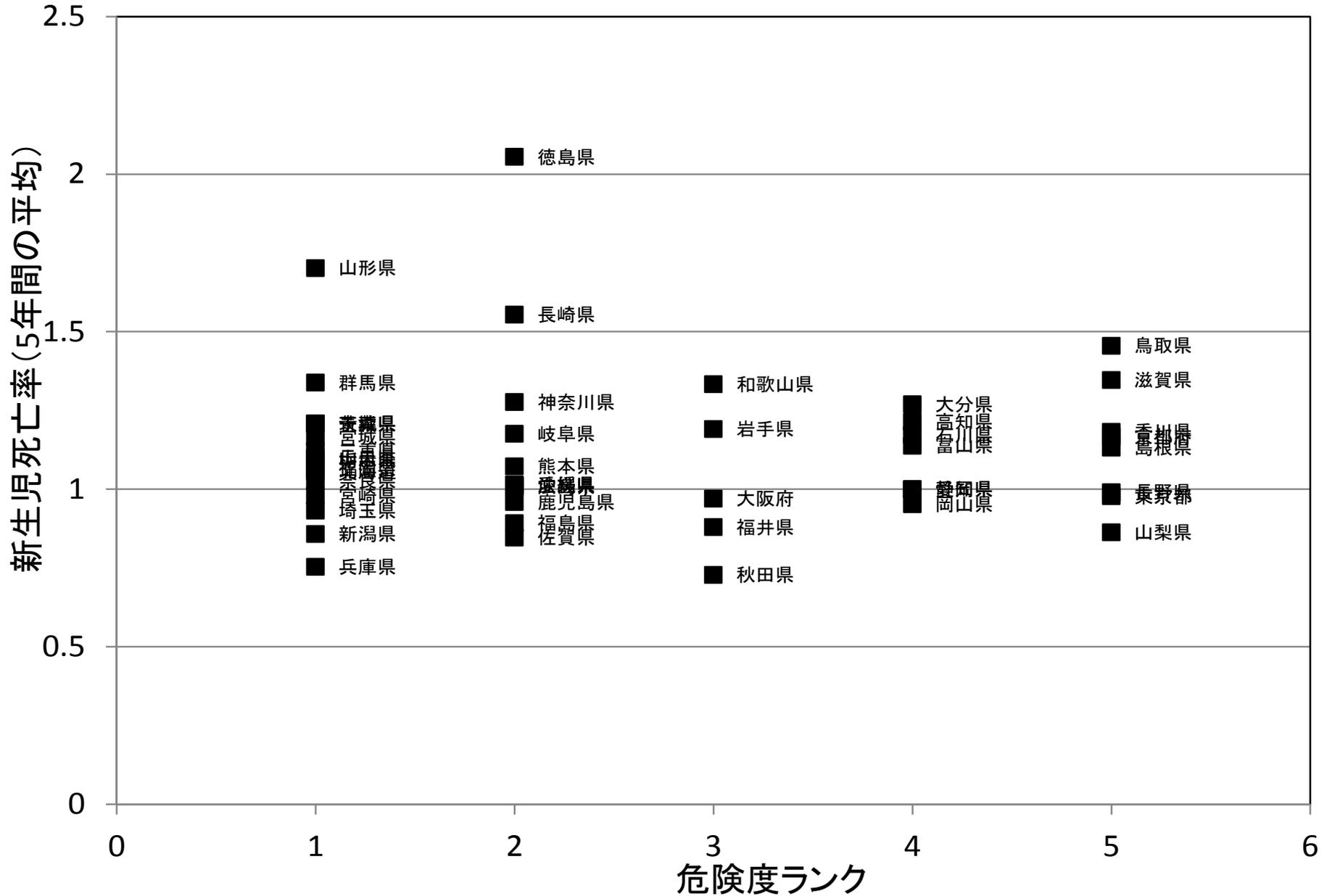


# 新生児科医の平均年齢と 出生当たりの新生児科医数 の関係(都道府県別)

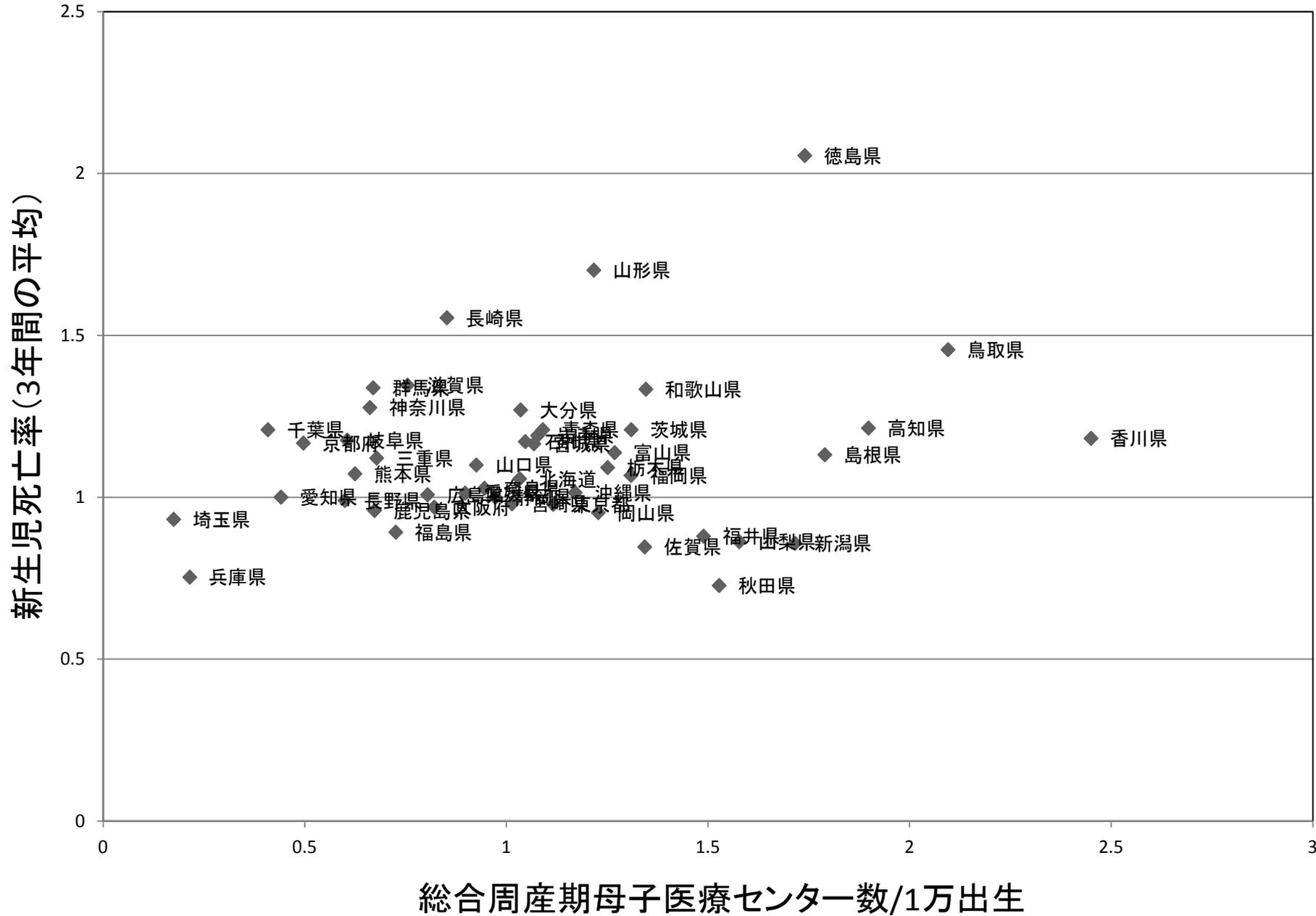




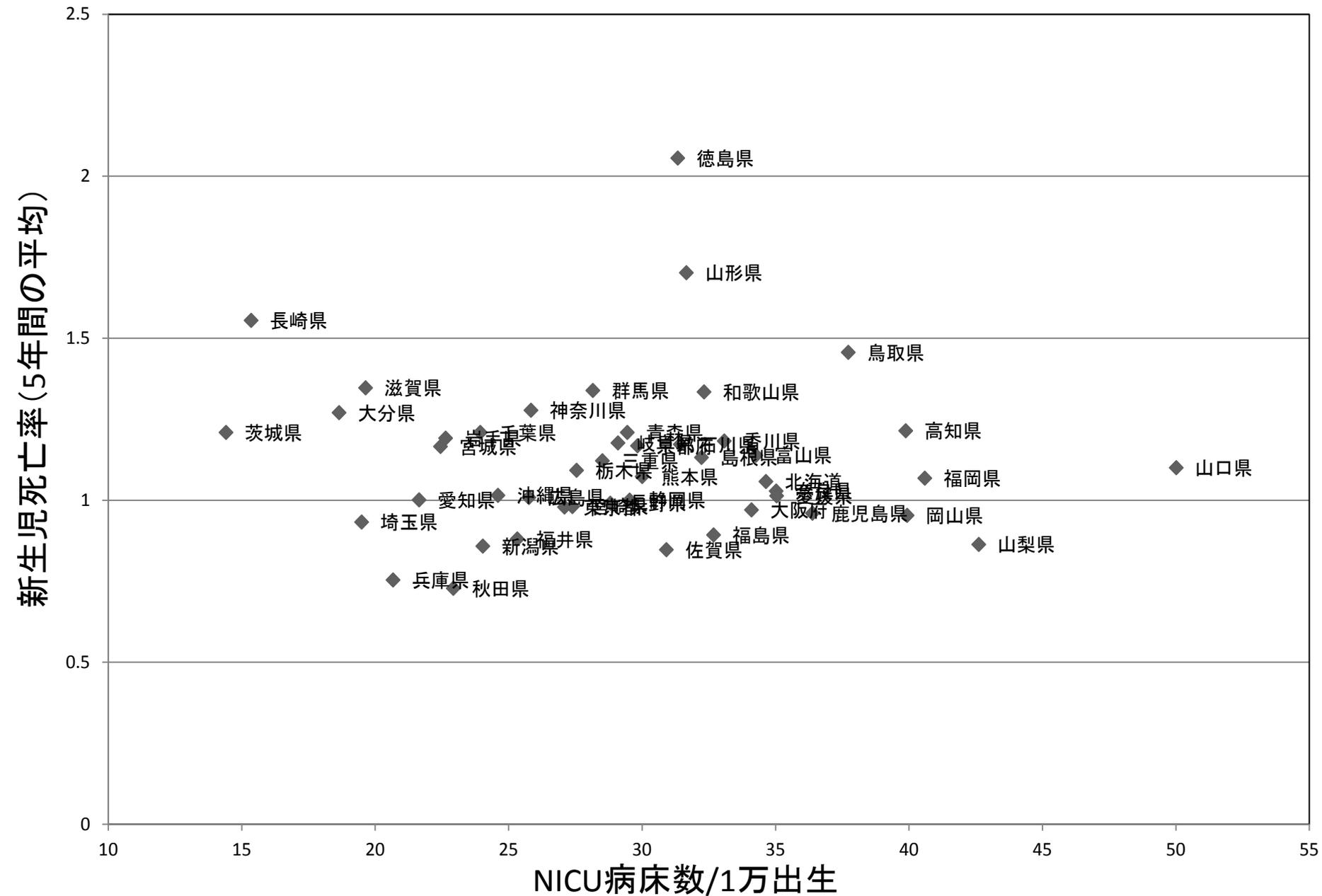
# 都道府県の区分と新生児死亡率の関係



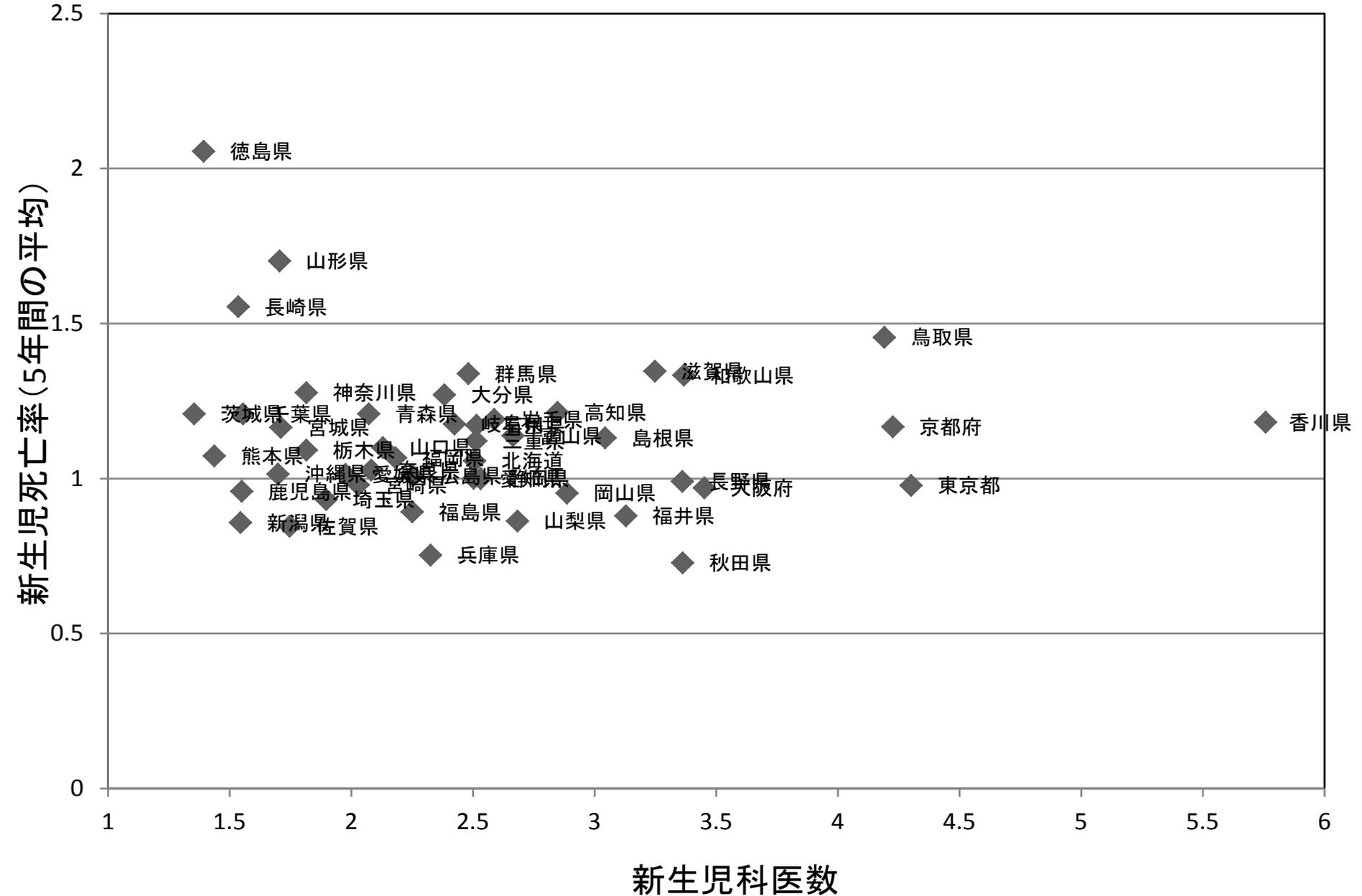
# 総合周産期母子医療センター数と新生児死亡率の関係



# NICU病床数と新生児死亡率の関係



# 新生児科医数と新生児死亡率の関係



# まとめ

- 全国のNICU病床数は、2013年に28床/1万出生と、ほぼ目標数に到達したが、地域格差が存在する
- NICU病床数の増加にともない、新生児科医への負担が増加している
- 新生児科医の年齢、勤務実数を考えると、近い将来、新生児医療が破たんする危険性を抱えている地域が存在する
- NICU病床の整備と新生児科医の育成が、地域の新生児予後を改善している